

実践2 国語

単元名：「私のほそ道～青春は旅人なり～」をテーマに 俳句を作ろう（第3学年）

○ 教科の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
(1)社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	(2)社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。	(3)言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語感覚に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

○ 単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
(1)歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。【〔知識及び技能〕（3）ア】	(2)文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開の仕方などを捉えることができる。【〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと（1）ア】	(3)言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

○ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歴史的な背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、物語の展開の仕方などを捉えている。	進んで歴史的な背景などに注意しながら古典の世界に親しみ、学習課題にそって自作の句を発表し合い、自らの作品を調整しながら交流し創作しようとしている。

◎ キャリア教育の視点を踏まえた授業改善

「おくのほそ道」を読み、芭蕉の旅への思いを踏まえ、中学校生活を振り返って俳句を詠む。お互いの俳句を鑑賞し合い、交流する中で自らの作品を調整する。出来上がった俳句は「伊藤園お～いお茶新俳句大賞」に応募し自分の思いを表現する機会とする。単元初めに目標・単元計画と俳句創作を伝え、自分の身に付けたい力を「未来シート」で設定、単元終了時に自己評価と他にも伸びたと思う力を挙げさせ実践の効果を振り返る。

○ 指導と評価の計画（5時間）

◎記録に残す活評価 ○指導に生かす評価

指導と評価の計画					
時	学習活動	評価の観点			備考
		知	思	態	
1	①おくのほそ道を音読し古語の意味をおさえる。 ②歴史的仮名遣い・口語訳の確認 ③「月日は～」の一文から芭蕉が旅をなぜ人生にたとえて表現したのか、「旅」と「人生」の相違点を考える。	◎	◎	○	机間指導(ノート) 発言 芭蕉の旅に対する思いを、現代の旅と比較してまとめている(ノート記述)

	④旅に出る芭蕉の思いを俳句の表現技法から読み取る。	◎			
2	①平泉での芭蕉の涙の意味を「春望」の漢詩と比較して考える。 ②俳句と「平家物語」を比較し、心情を読み取る。	◎	○		平泉での芭蕉の涙の訳を句に込められた思いと共に関連づけて考えている。(記述) キャリア教育の視点を取り入れた未来シートの記入
3	①「立石寺」を音読し、「おくのほそ道」に取り上げられた俳句の表現技法を確認する。 ②俳句に込められた芭蕉の世界観と想いを想像する。	◎	○		俳句のイメージに合う画像の掲示(大型ディスプレイ)
4	①芭蕉の俳句の中から1句を選び、芭蕉の世界観を借りて下の句を読む。 ②工夫点や表現技法についてペアで交流しながら話し合い、振り返りシートに工夫点を記入する。 	○	○	◎	評価ルーブリックを提示して下の句を推敲し、ロイロノートに入力して共有する。 【上の句:「夏草や兵どもが夢の跡」】 下の句 儚く消える 三代の夢 下の句 工夫点 三代の英雄が義経をかくまったが、頼朝に見つけられ三代の思いが儚く散ってしまったという虚しさ表現し、倒置法を使って強調しました。 夏草や 兵どもが 夢の跡 芭蕉 生徒の作品例
5	①「人生」もまた「旅人」と捉えた芭蕉の思いから、自分の中学校生活を一つの「旅」と捉えて自作の俳句を3句制作する。 ②グループで推敲を行い、工夫点や表現技法について交流し、振り返りシートに工夫点を記入する。「伊藤園お〜いお茶新俳句大賞」への応募作品を選定する。 ③グループ内の優秀作品を全体で発表する。	○	◎	○	「未来シート」の単元学習後の自己評価 

○ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の進め方

具体的な進め方	評価材料
進んで歴史的な背景などに注意しながら古典の世界に親しみ、学習課題にそって自作の句を発表し合い、自らの作品を調整しながら交流し創作しようとしているかを見取る。	ワークシート 作品
芭蕉の旅への思いを踏まえ、中学校生活を旅と捉えて、振り返りながら句を創作しようとしているかを見取る。	行動観察 作品
俳句を創作する際、自分の考えが相手に伝わるか、他者の作品を読んだり、考えを聞いたりなど調整しながら粘り強く工夫している様子を見とる。	振り返りシート

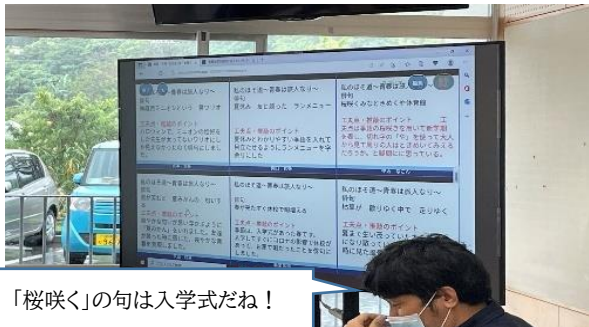
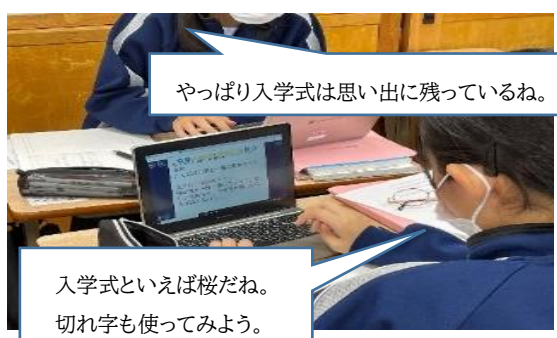
〈芭蕉の句に対する下の句作成に係るルーブリック〉

評価	主体的に学習に取り組む態度
A	進んで古典の世界に親しみ句を作成・交流し、自作の句の推敲に生かしている。
B	進んで古典の世界に親しみ句を作成・交流し、伝え合おうとしている。
C	Bの基準を満たしていない

〈振り返りシート生徒の記述〉

A評価	下の句を作ったときに友達から「もっと動きを入れた方が伝わるのでは」と言われて少し動きの描写を入れるとすごく良くなったのでよかった。次の時間ではもっと上の句と関連付けて下の句を表現していこうと思った。
B評価	俳句を詠むとき、最初は何を詠めばいいのか分からなかったけど、友達の作品を見て、季語、置き字などの使い方を知り、私も「梅雨」を季語に使い、文章では雨だから悲しい感じを出したかったので「思い出ひたる」とつけました。
B評価	友達の俳句は体言止めを使ったところが良かった。自分の俳句は比喻表現がくどくて少し分かりにくいところもあったと思うのでもっと分かりやすい表現を意識しようと思った。アドバイスから推敲する時間が無かったのもっと積極的な交流が必要だと思った。

○授業の様子(5/5 時間)

1 本時のねらい 「人生」もまた「旅人」と捉えた芭蕉の思いから、自分の中学校生活を1つの「旅」と捉えて自作の俳句を3句制作する。 2 本時の評価規準(評価場面と方法) 進んで歴史的な背景などに注意しながら古典の世界に親しみ、学習課題に沿って自作の句を発表し合い、自らの作品を調整しようとしながら交流し創作しようとしている。〔主体的に学習に取り組む態度〕(振り返りシート・行動観察・成果物など) 3 本時の展開	
指導と学習活動	評価(☆)と配慮事項(●)
(1) 「おくのほそ道」より、俳句の定型と季語について説明し、代表的な芭蕉の句の表現技法とその効果について確認する。 (2) 自身の中学校生活を振り返り、喜怒哀楽等の心が動いた瞬間を3句表現する。グループで選定し、一つをロイロノートの提出箱を用いて全体で共有し、鑑賞する。  「桜咲く」の句は入学式だね！ (3) 作品を完成させて推敲した点や表現の工夫について句の紹介文にまとめ提出する。	☆切れ字に込められた思いや、表現技法の効果について確認し記述している。  やっぱり入学式は思い出に残っているね。 入学式といえば桜だね。切れ字も使ってみよう。 ●創作活動を行う上で、スピードに個人差があることが予想されるので季節や行事等、季語等を提示する。 ☆季語や定型に沿って、自分の心情を句の中で表現することができる。 ☆工夫・推敲した点をまとめることができる。

授業終了後振り返りシートから俳句を創作する際、他者と交流しながら推敲・改善しようとする過程について単元終了後の振り返りシートにて「主体的に学習に取り組む態度」を評価。ルーブリックは〈芭蕉の句に対する下の句作成に係るルーブリック〉と同じ。

〈振り返りシート生徒の記入〉

A評価	俳句の歴史を知り自分でももっと調べてみたいと思った。自分で俳句を作ると少ない文字数の中で気持ちを表現する言葉選びが難しいと思った。友達の俳句を見ると体言止めがうまかったので参考にした。自分でも表現を調べて次はもっとうまく作りたい。
B評価	俳句を作ってみて面白さが分かった。友達の俳句も上手だった。五七五の定型と季語を入れるのが難しかった。次は自分でももっと上手に作りたい。同じ場面でも受け取り方が違うので面白かった。

〈生徒作品〉

桜咲くみなときめくや体育館

工夫点:季語の「桜咲く」を用いて新学期を表し、切れ字の「や」を使って大人から見て周りの人はときめいているだろうかと疑問に思っている。

第八波やまぬ雨なし秋の晴れ

工夫点:いつまでも続くコロナ禍を雨にたとえ、人間界ではコロナの雨がやまないのに、自然界では雨が多いはずの秋にめずらしく晴れている空を対比させました。

君が笑むと夏みかんの匂いする

工夫点:爽やかな匂いが思い浮かぶように「夏みかん」を入れました。友達が笑った時に感じた、爽やかな青春を表現しました。

◎ 実践の効果

・「未来シート」の考察（人数は延べ人数）

かかわる力	39名	ふり返る力	18名	やりぬく力	43名	みとおす力	19名
-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----

単元前は「かかわる力」「やりぬく力」を多くの生徒が選んだ。友達と交流しながら俳句創作に取り組み、コンクールへの出品に向けてやりぬきたいという姿勢が見えた。学習後に身に付いた力も「かかわる力」12人、「やりぬく力」11人と多くの生徒が選んでおり、かかわりの中で自分の表現を調整しながら、俳句コンクールに向けて創作をやりぬいたことが伺える。単元後の顔マークによる自己評価では「かかわる力②」の「進んで考えや気持ちを伝え合う力」の☺マークを選んだ生徒が10名、「やりぬく力④」の「発想（想像）する力」の☺マークを選んだ生徒が12名と高い評価を付けた。

- ・協力員の感じた効果 「かかわる力」に課題を感じる生徒が多いので、良い機会となった。言葉で自分の気持ちを表現し、同学年の生徒と交流する機会を通して、自分の作品や表現方法を見直し、より相手に伝わるように調整する力を養い、「かかわる力」を伸ばすことができた。「伊藤園お〜いお茶新俳句大賞」への応募を目標に、粘り強く作品の制作に取り組み、「やりぬく力」の育成につながった。
- ・生徒の「未来シート」への記述から読み取れる実践の効果 「俳句を詠むのが苦手な全然いい季語とか思いつかなかったけど友達と一緒に考えるといい俳句を作ることができ、いい言葉が思いつくようになった。自分の思い出を俳句で表すことができた。」「前もって自分の伸ばしたい力を選んでいたら自分が具体的に何をしたらいいのかわかったし、自分が今伸ばしたい力はここだけど、ここも伸ばした方がよいとわかりやすいから、何をしたらいいのかが分かった。」などという記述や「お〜いお茶新俳句大賞」へ挑戦から「かかわる力」「やりぬく力」を伸ばすことができ、「未来シート」の活用は「学びに向かう力の育成」に有効であったと考える。